

<p style="text-align: center;">岩手県工業技術研究推進会議 材料技術部会議事録</p>		<p>(実施日)</p> <p style="text-align: center;">平成16年10月26日(火)</p>
<p>(テーマ名)</p> <p style="text-align: center;">鑄鉄の機械的特性に及ぼす基地組織の定量的評価 (事前評価)</p>		
委員	質問・意見	回答
A委員	<p>検査対象となる薄肉鑄鉄品が実用化されていない中で、非破壊検査技術を開発する意味はあるのか？</p>	(下記)
E委員	<p>(上記質問に対するコメント)</p> <p>鑄造工学会全体で取り組んでいる鑄鉄の薄肉化に関するプロジェクトの一環として、非破壊検査技術の開発があり、薄肉鑄造技術の開発と同時進行している。</p>	
D委員	<p>マルチスケール電磁アプローチとはどのようなものか？</p>	<p>検査対象を磁化させて渦電流信号などを調べるものである。</p>
	<p>弾性歪などは磁性的な信号に大きな影響を及ぼすが、どのような対策を考えているか。</p>	<p>装置自体の開発は直接担っていないので、具体的な対策は回答できない。ただ、機械的特性と基地組織の相関を明らかにすることも、チル組織の検出に限定したプローブ設計には重要と思われる。</p>
B委員	<p>(コメント)</p> <p>非破壊検査の説明が全体的に曖昧である。ベースとなるモデルや原理を示す必要がある。その上で、検査対象の表面状態を反映しているのか、バルク特性を反映しているのか、チル組織を検出する為の課題は何かなど具体的に説明すべきである。</p>	